



大型遊具も順番を守って楽しくね

子どもたちが待ちに待っていた大型遊具が、先日の19日(日)に、教頭、教務主任の立会いの下に設置完了しました。旧園舎時代の大型遊具「ぐりとぐら」が、附属幼稚園のランドタワー的な存在で、保護者の方を含めて子どもたちに大変な人気があっただけに、みんなが、今回の遊具の設置を楽しみに待っていたところでした。

20日(月)の朝に登園した子どもたちが、園庭の大型遊具を目にすると、「ウァー凄い!面白そうだ」「早く遊びたい」と口々に驚きと歓喜の声を上げ、教室へ向かって行きました。子どもたちは、直ぐに、体操服に着替え、大型遊具へ一目散です。全ての子どもたちが登園を終えた10時過ぎの大型遊具は、大勢の子どもたちで満員御礼の状態でした。

当然予想されることでしたが、事前に職員間で遊び方のルールを話し合っていないませんでした。職員間では、トラブルを回避し、安全確保のための遊び方のルールを決めた方がよいと判断し、朝の集いで簡単な使い方のルールを話した学級もあったようです。こうした指導もあってか、大勢集まった割には、スムーズな流れで、順番を守って上手に遊んでいました。

見ていると、年長さんが、年少さんに順番を譲ったり、滑り台では一緒に滑ったりして思いやりを発揮しているではありませんか。この大型遊具の特徴の一つに、運動能力を高めるとともに、道徳性を養うことも含まれています。正に、子どもたちは、大型遊具のねらい通りに、自然の流れの中でルールを作っていくことができたようです。

本園の子どもたちは、転入生を気持ちよく受け入れたり、年下の子どもたちに優しく接したりしています。年長さんの優しい思いやりのある姿を見て育った年少さんが、年長になった時に、順送りに年下の人を優しくしていくというのが自然と受け継がれ、本園の伝統になっているのかもしれない。



降誕会のお話も静かに聞きました

親鸞聖人の誕生をお祝いする宗祖降誕会を21日に実施しました。お釈迦様の誕生を祝う花まつりに引き続き、大きな法要では、大学の先生に分かり易くお話をさせていただくことになっています。

今回の先生のお話は、親鸞さまの誕生に関わった話というより、親鸞さまのみ教えの一つである「嘘をつくことは悪いことである。嘘をつかず正直に生きることが大切である」ということを「おおかみと少年」の絵本を題材に読み聞かせをされました。今回は、絵本をめくりながら、大型スクリーンに映し出す方法を取りましたから、映像が大きく、はっきり見えるために、遊戯室は、まるで、波を打ったようにシーンと静まり返り、みんな話に夢中になって聞き入っていました。

今年度2度目の全体での集まりですが、今回も年少さんは、静かに聞くことができました。職員一同、感心するばかりでした。やはり、手立てが大切です。



実習の場としての附属幼稚園

大学の附属幼稚園の使命の一つに、教育実習の場として、将来有能な教員を育てるというのがあります。5月20日から3年生は2週間、4年生は4週間の教育実習が始まり、次のクラスで実習を行います。子どもたちからお姉さん先生と慕われ、今日も園庭を思い切り走り回っていました。

- さくら組に、筑女大4年 元山 美樹 先生
(後半の6月3日から、らっこ組)
- う め組に、筑女大3年 日下部眞尋 先生
- うさぎ組に、筑女大3年 大里 咲子 先生
- ばんだ組に、筑女大4年 宮崎 優伽 先生
(後半の6月3日から、ゆり組)

また、6月3日と10日から筑女大3年の山外彩水先生、京都女子大の藤井美香先生が教育実習にやってきました。指導する側の本園の教員も、週指導計画案を立案することで、指導力量を高める努力をしています。